

新型コロナウイルス感染症の 県内発生について

その17

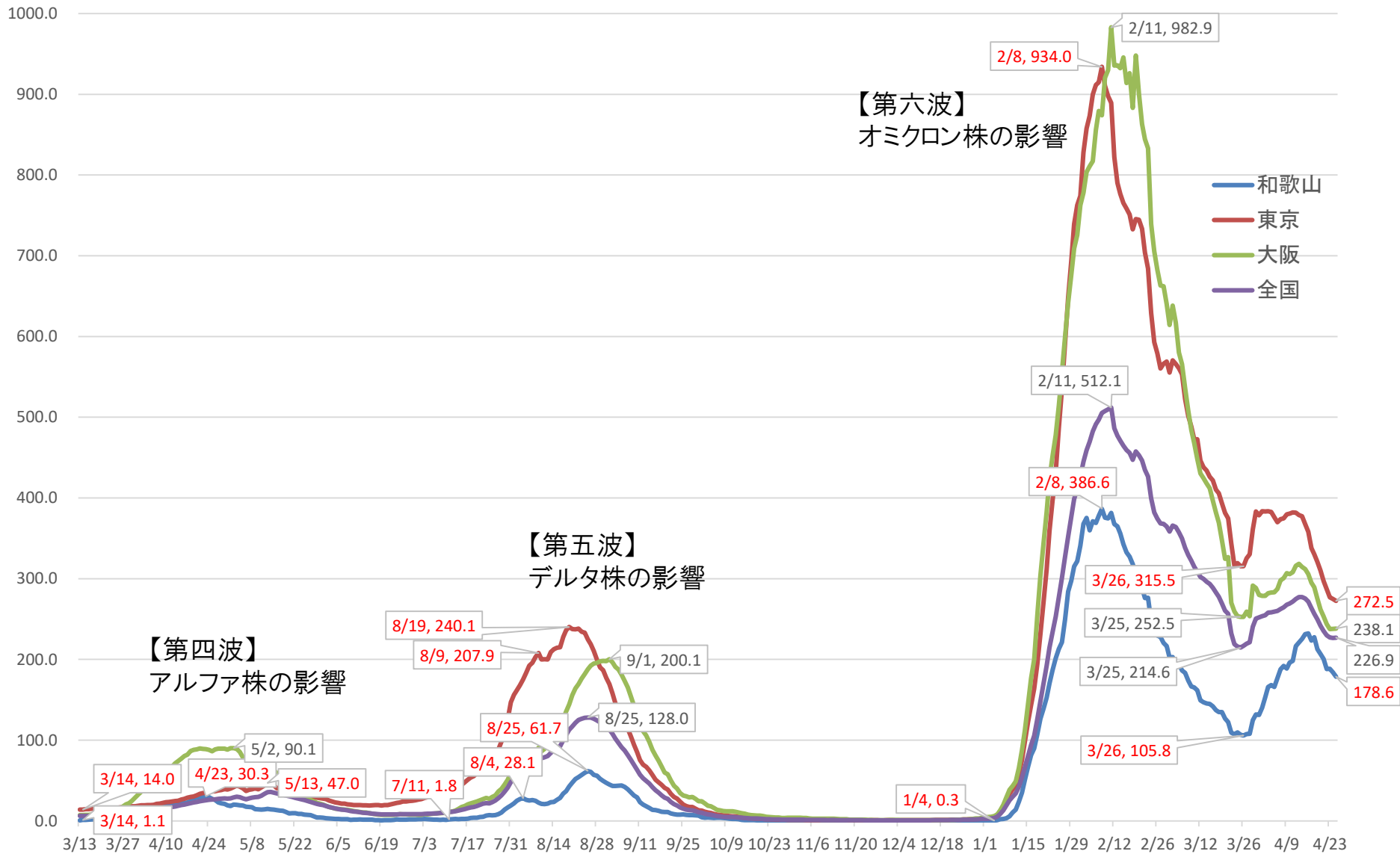
～第六波・オミクロン株～

和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

2022年4月27日



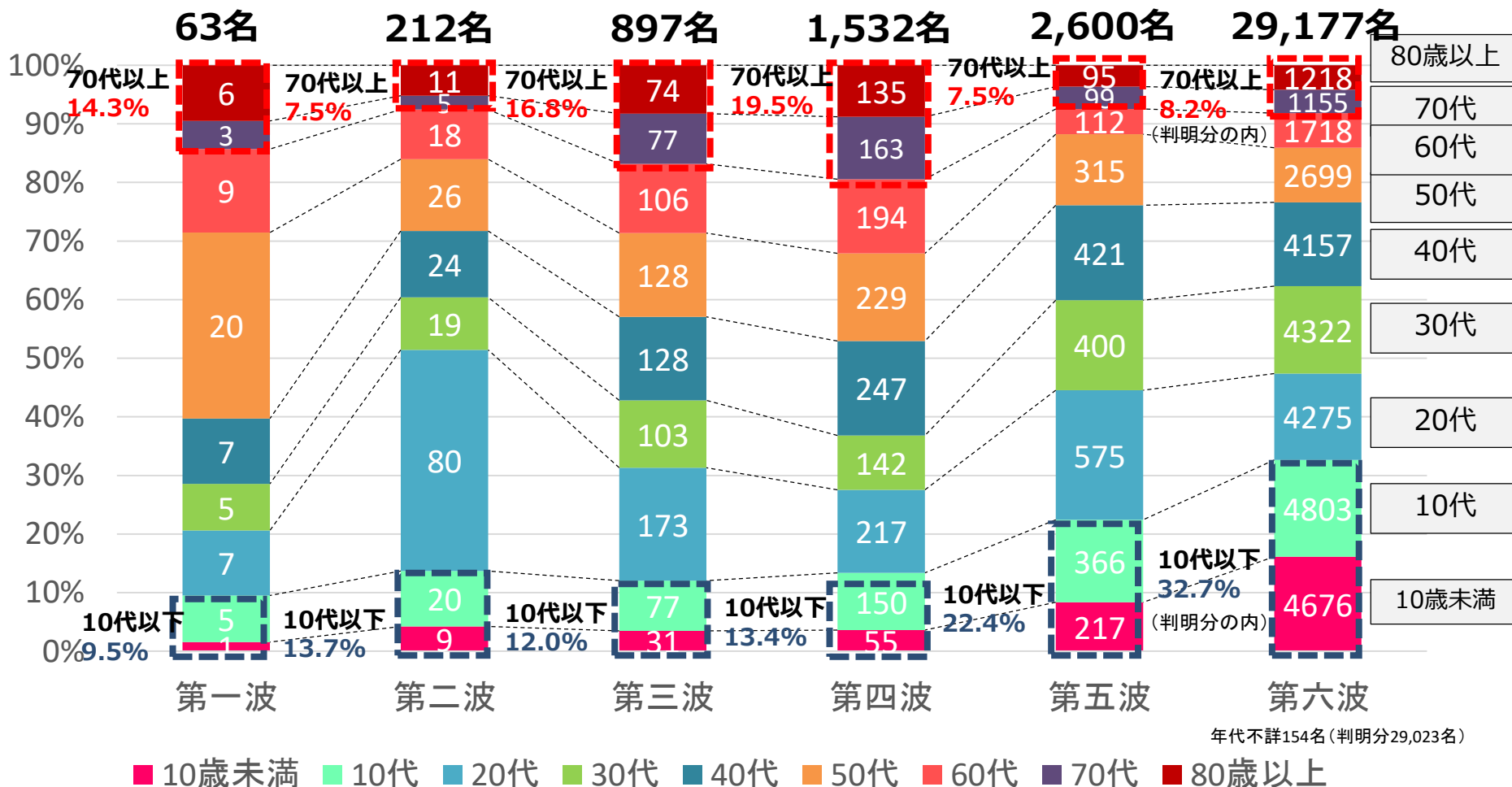
感染動向の推移（全国・東京・大阪・和歌山） 1週間・人口10万人当たり 令和4年4月25日現在



県内の年齢別感染者数

(令和4年4月23日発表分まで)
34,481名

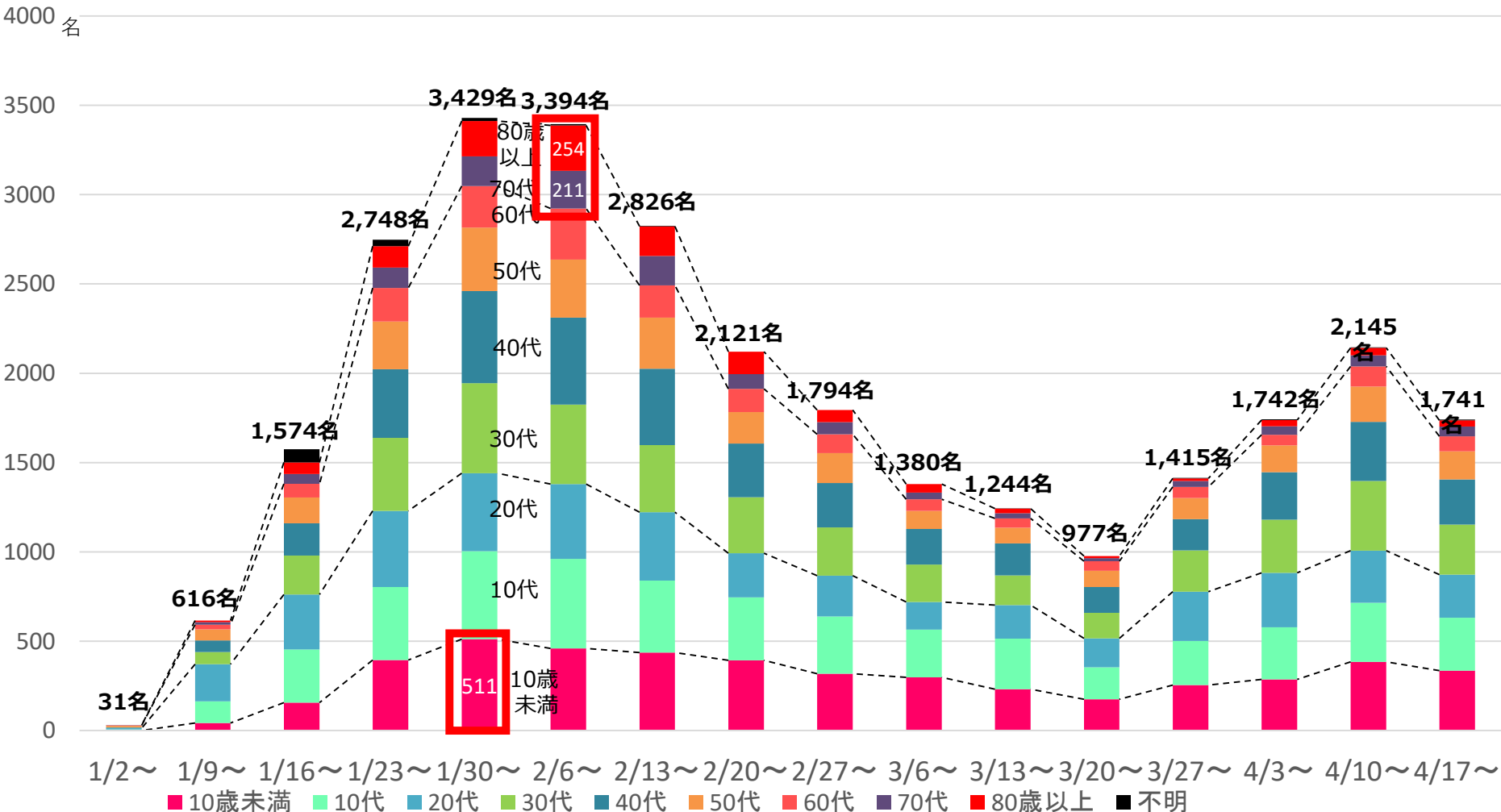
- 第一波では感染者の年代は50・60代が中心であったが、第二波では、20代以下の若者が中心となった。
- 第三波では、全年齢に感染が広がったが、特に高齢者と小児の患者数が増加している。
- 第四波においても、各年代に感染が広がるとともに、高齢者の割合が高くなっている。
- 第五波においては、20代が最も多く、高齢者は少ない。10代以下の若者・小児が増加した。
- 第六波においては、10代以下の若者・小児が急増するとともに高齢者が増加した。



県内の第六波以降の週別年齢別感染者数

(4月23日発表分まで)
第六波～ 29,177名

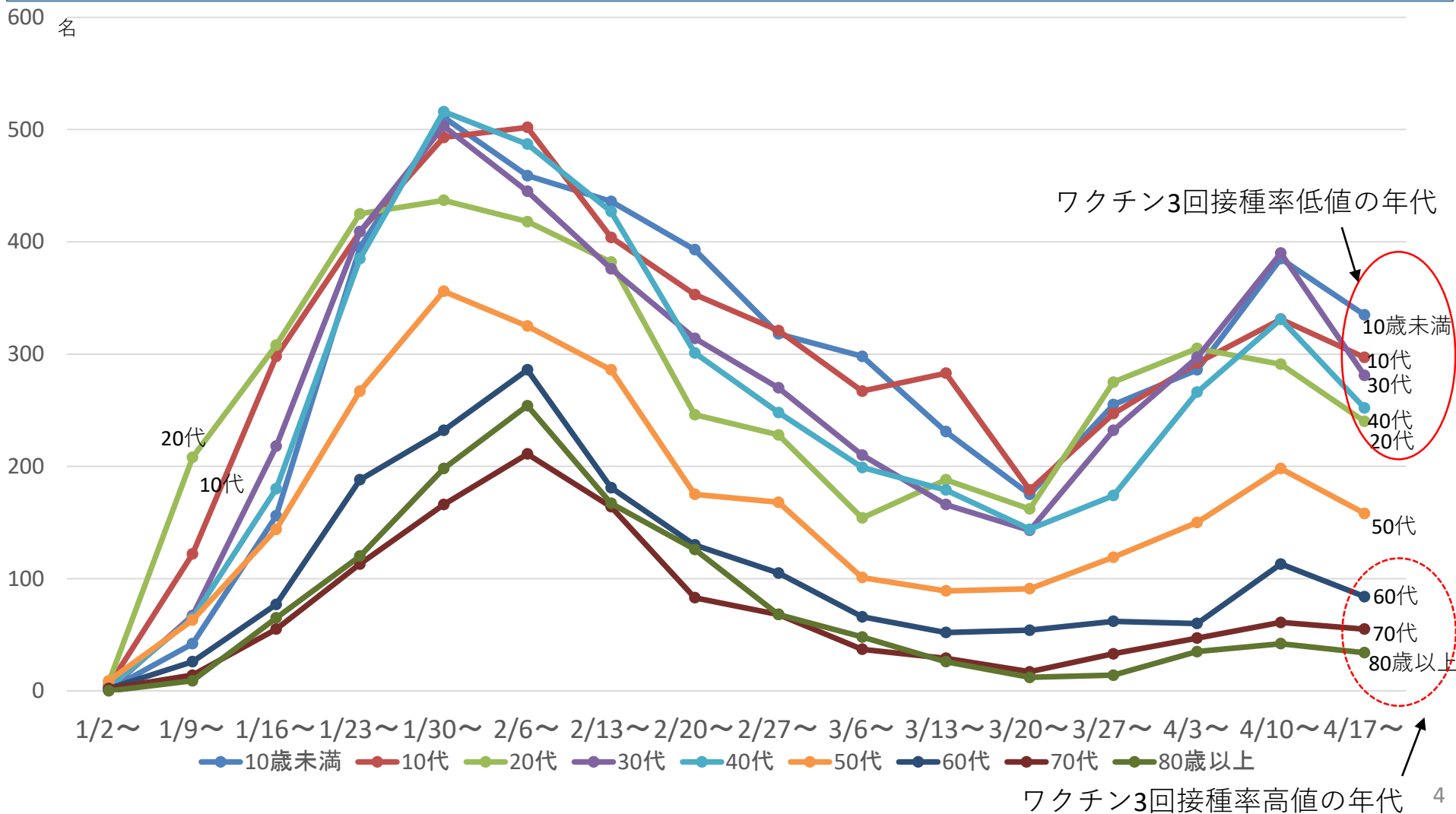
- 第六波のこれまでのピークは、1月末から2月の第一週で、小児の感染が増えたことが最大の原因と思われる。
- 第六波で高齢者が最も多かったのは、2月の第二週で高齢者施設関係のクラスターや家族内感染が増えたことによると思われる。
- 第六波の感染者数は、2月の第三週目から減少しているが、高齢者施設関係のクラスターが減少したことや小児の感染者数が減少したことによると思われる。
- 3月末から10代、20代の感染者が増加し、再び、4月の第三週にピークがあったが、それ以降は減少している。



県内の第六波以降の週別年齢別感染者数

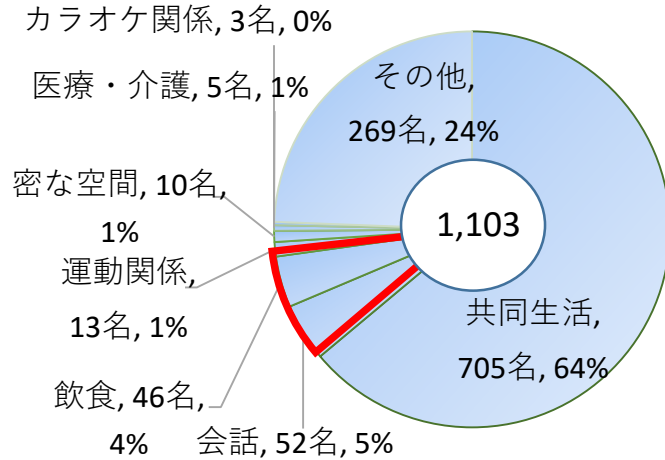
(4月23日発表分まで)
第六波～ 29, 177名

- 第六波の感染の拡大は、20代、10代から始まり、30代、40代の働き盛りの年代、その家族の子供に、そして高齢者に感染が拡大していった。
- どの年代も2月中旬から3月初旬には減少していったが、3月下旬から再び、10代、20代の行動が活発な年代の感染者が増加したことから、再度感染拡大傾向になった。
- 4月の第四週には、全ての年代で減少したが、70代以上については減少が少ない。

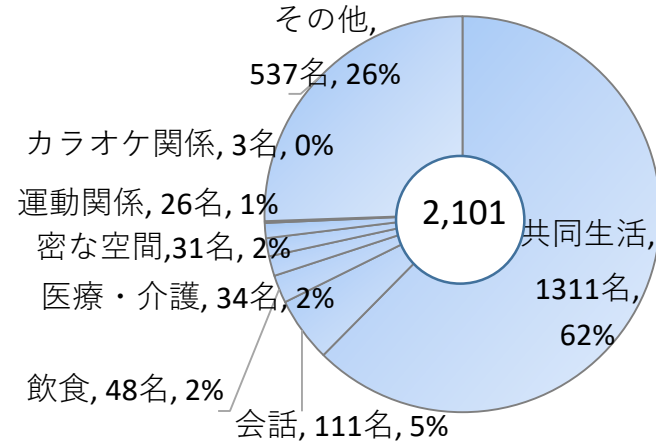


最近の県内感染者の推定感染機会

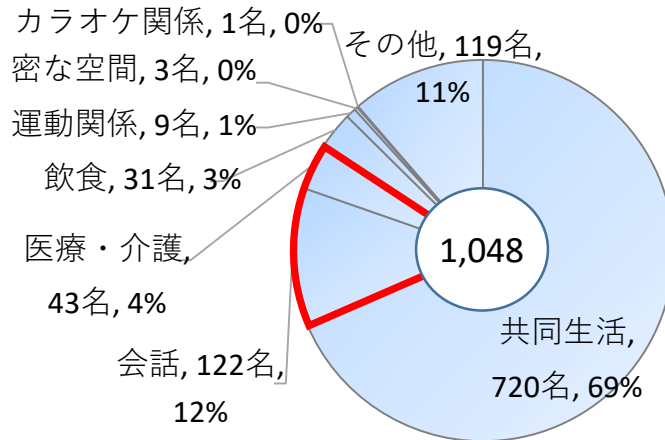
A. R4. 3.24~4.4



B. 4.5~4.15



C. 4.16~4.22



注) 一方または双方が**マスクなしで会話**したことによる感染が増加!

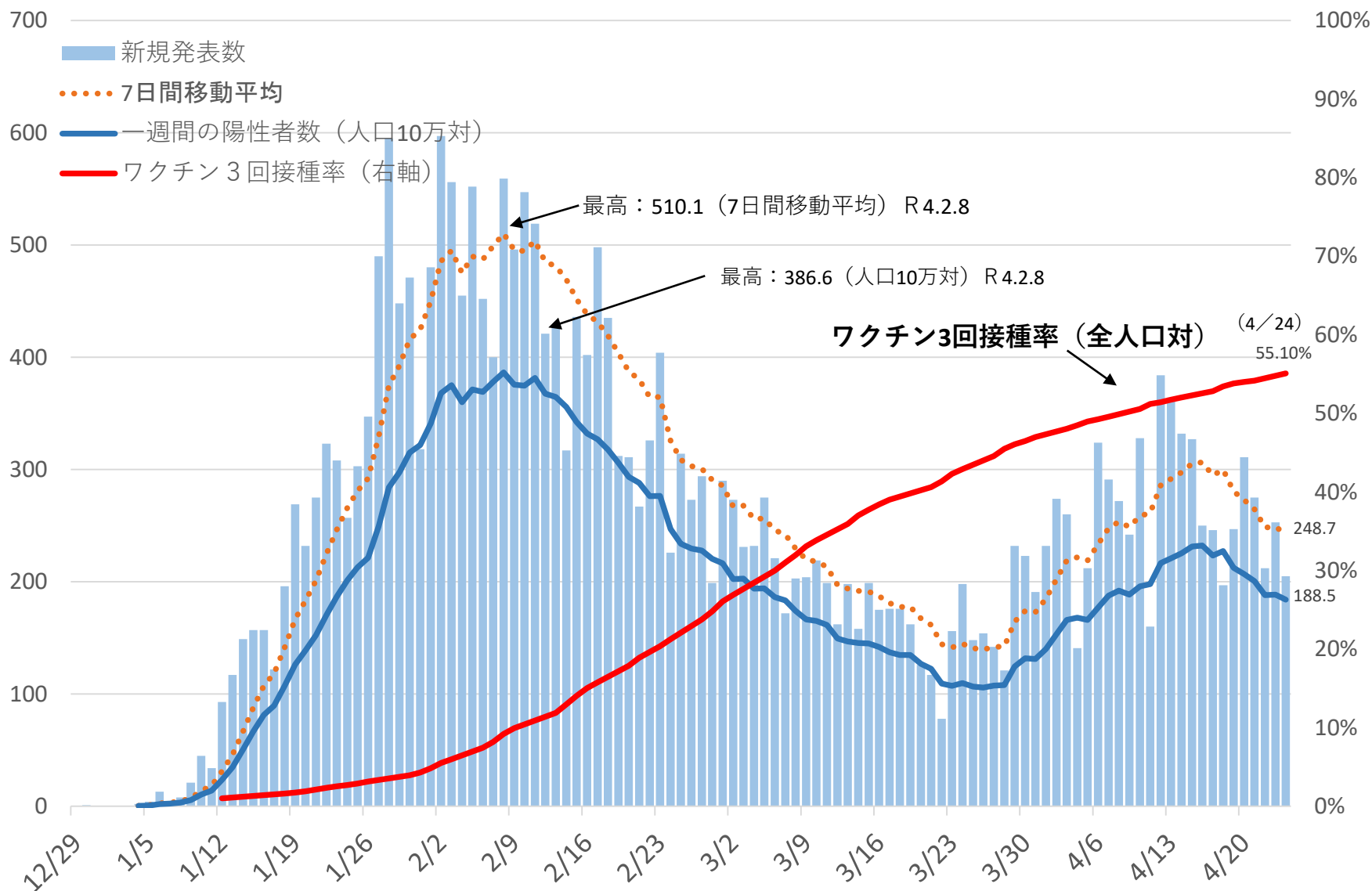
注) **医療機関、介護等の福祉施設**での感染が増加!

- A. 令和4年3月24日~4月 4日発表分 2316件中、感染経路不明 1213件を除く **1103件:約48%**
 B. 令和4年4月 5日~4月15日発表分 3236件中、感染経路不明 1135件を除く **2101件:約65%**
 C. 令和4年4月16日~4月22日発表分 1738件中、感染経路不明 690件を除く **1048件:約60%**

※県外計上者を除く

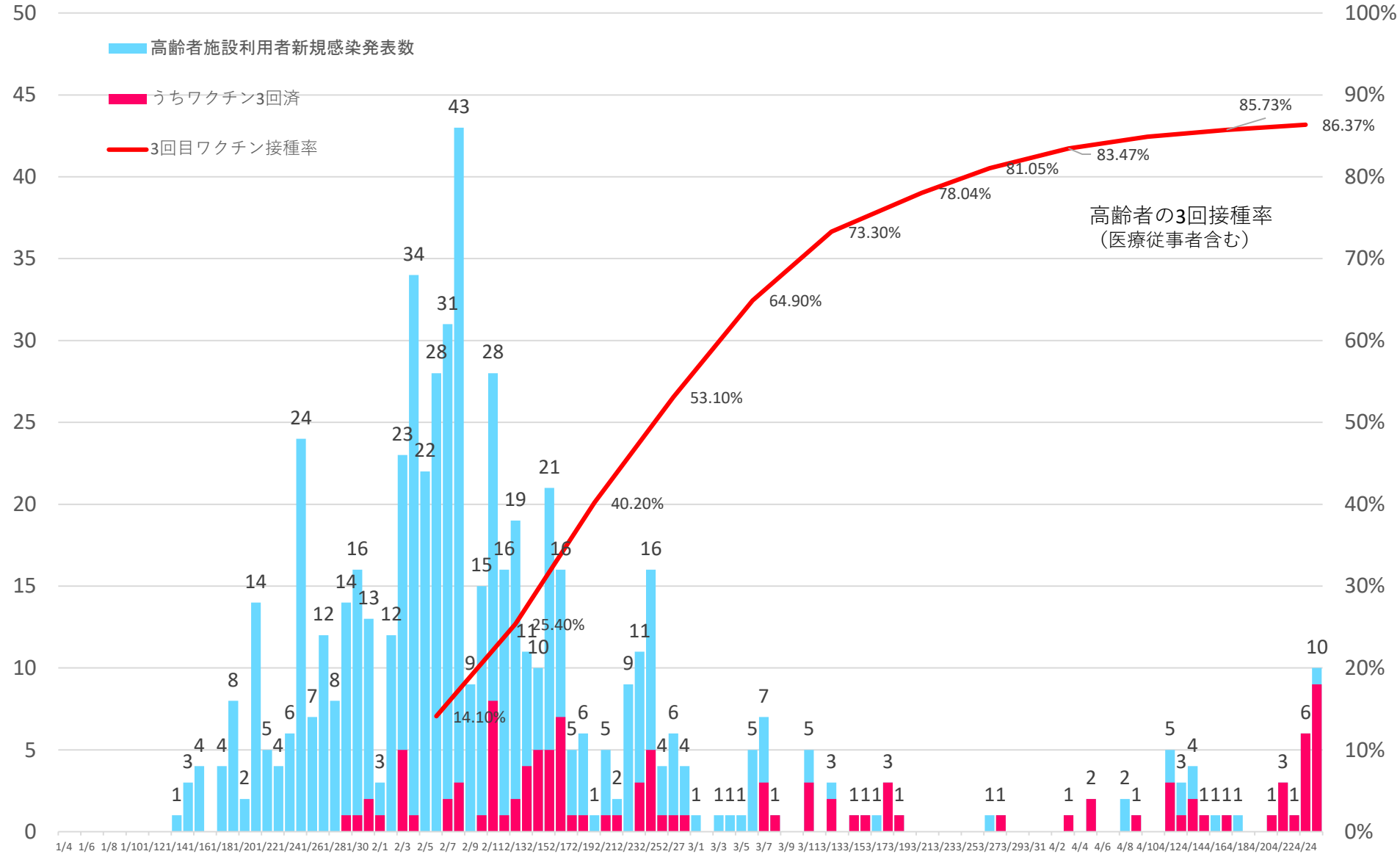
ワクチン追加接種と感染状況

第六波の新規感染者数の推移とワクチン3回接種率

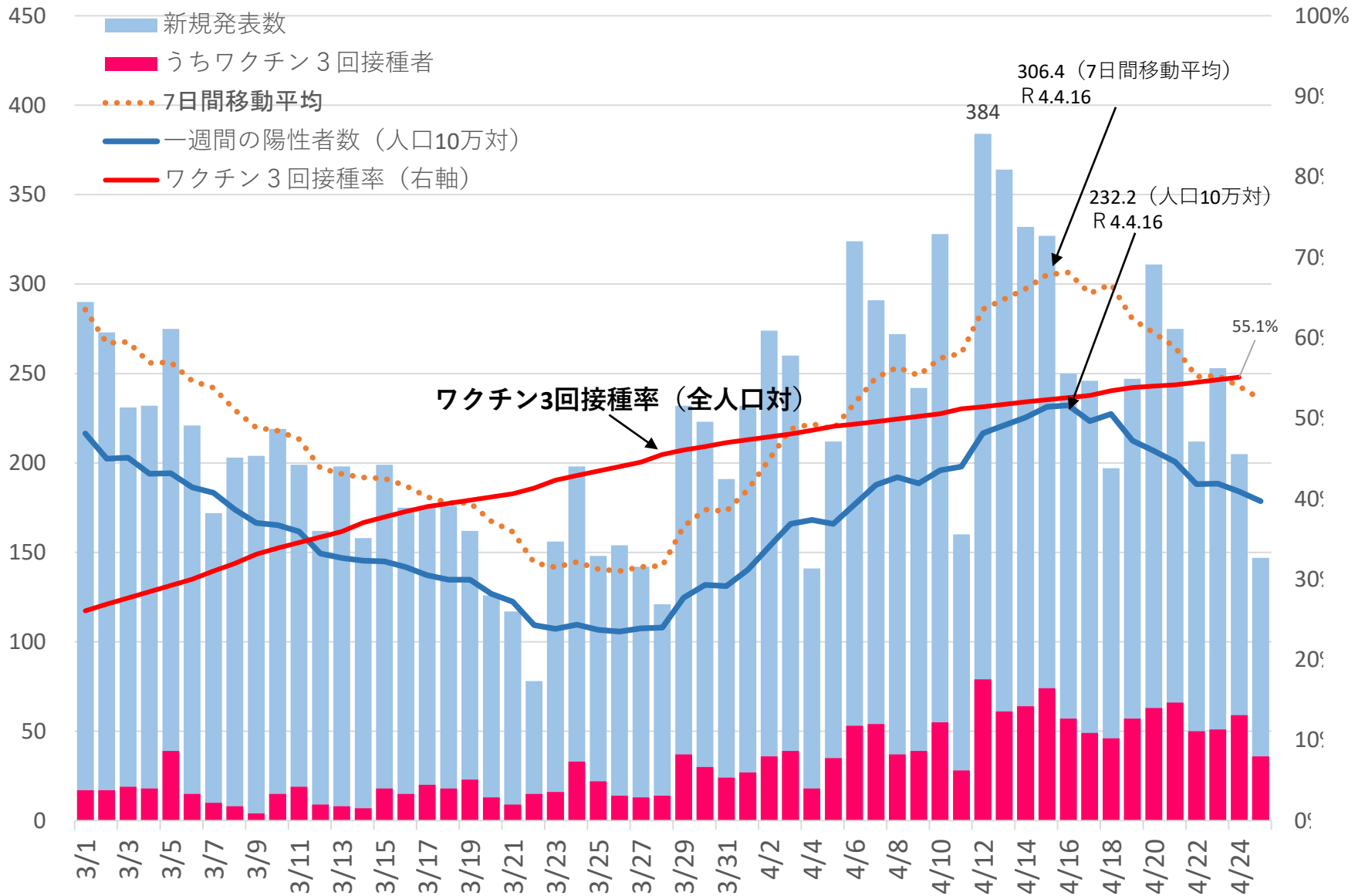


高齢者施設利用者の新規感染発表数の推移（第六波）

※クラスターとなった施設の利用者（61施設632名（4月25日時点））



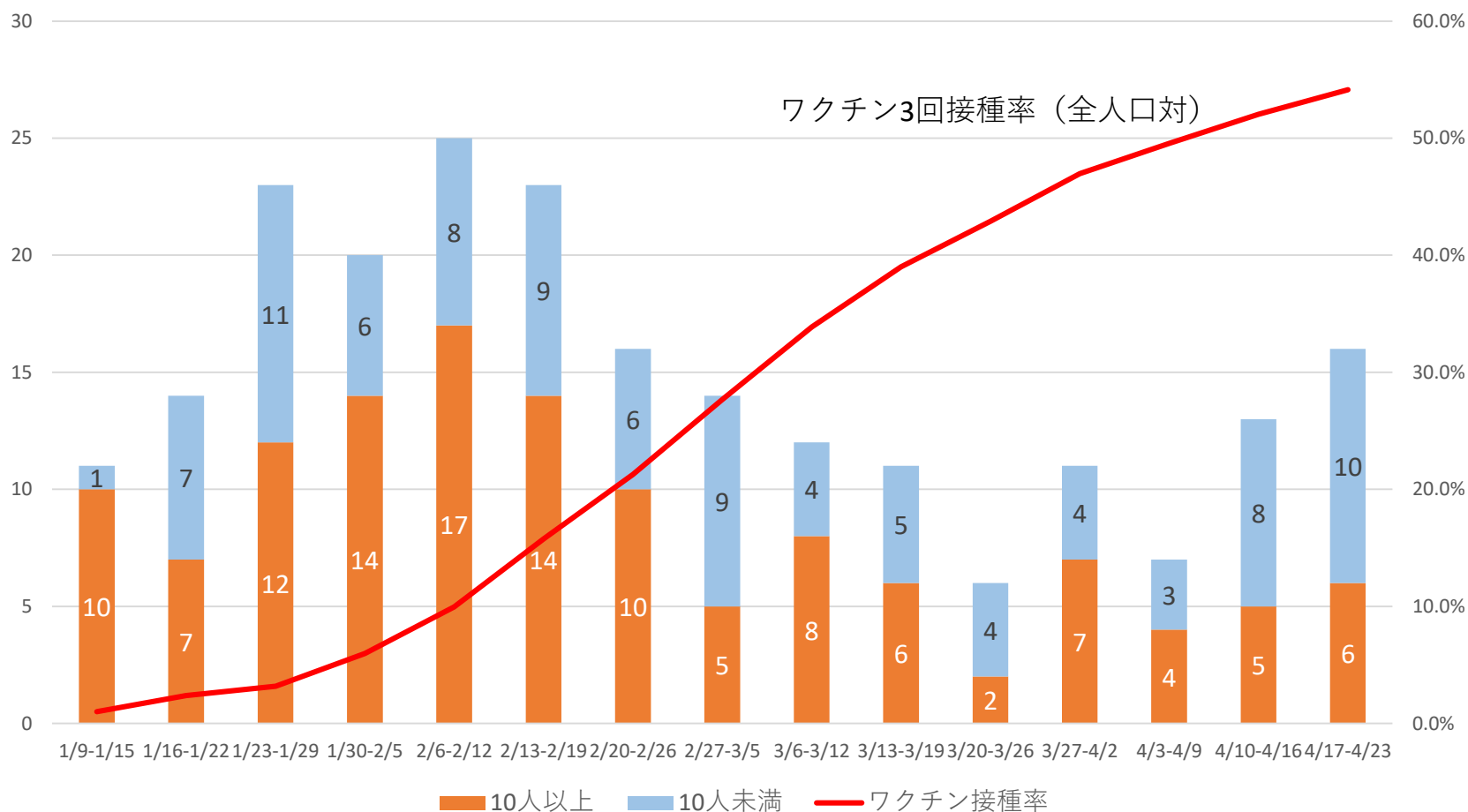
第六波の新規感染者数の推移とワクチン3回接種率（3月以降）



第六波におけるクラスター10人以上規模の発生の推移

令和4年4月23日現在

- 第六波のクラスターは発生数も多く、オミクロン株の流行により、感染スピードが速く、感染力もこれまで以上に強かったことから、10人以上の規模の発生が多かった。
- ワクチン接種等により、10人以上の規模の発生は減少したが、今後、オミクロン株 B A 2 の流行により再び、規模が大きくなる可能性があり、感染予防対策を強化する必要がある。

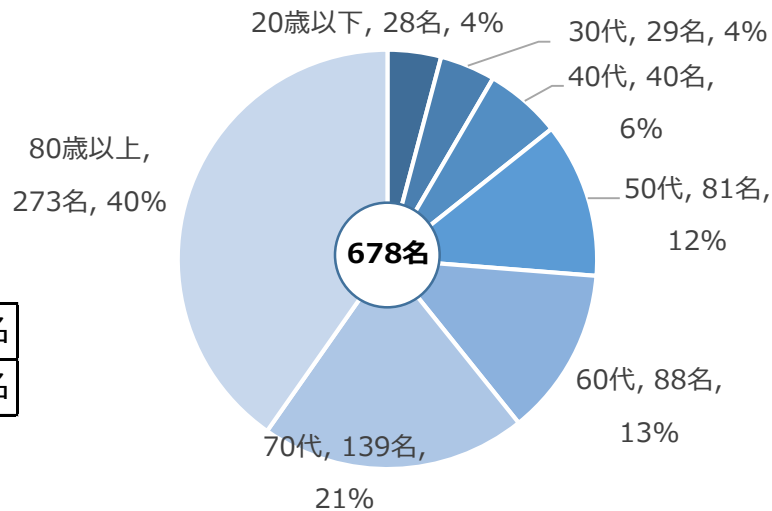


第6波 肺炎患者の状況

令和4年4月20時点
N=678

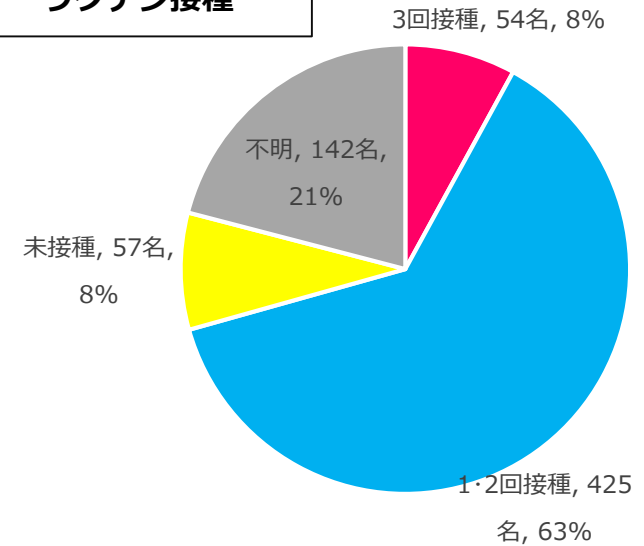
- 第六波の令和4年4月20日時点で確認された肺炎併発者は678名であった。新規感染者の約2.4%にあたる。
- 50代以上に多く、特に70代以上の高齢者に多かった。まれに、小児の事例もあった。
- ワクチン3回接種済者にも確認されたことに留意する。

年代別

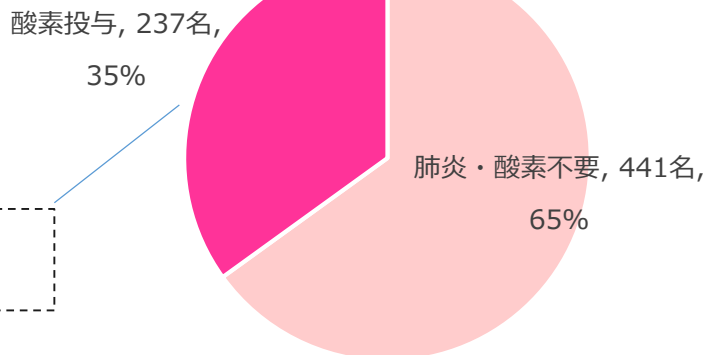


男	359名
女	319名

ワクチン接種



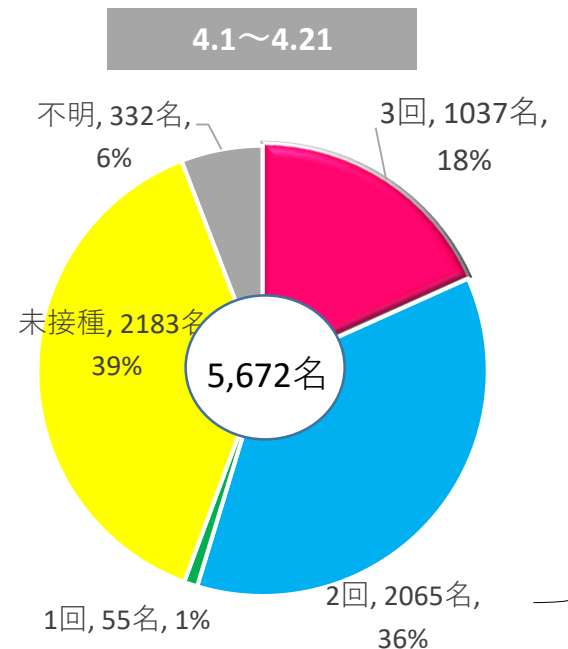
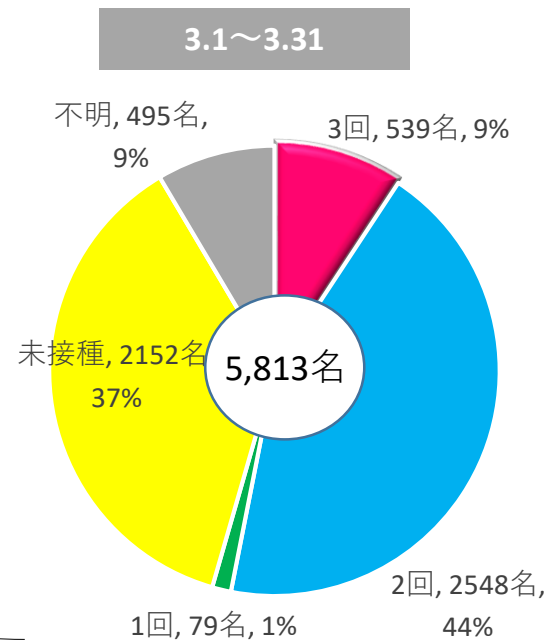
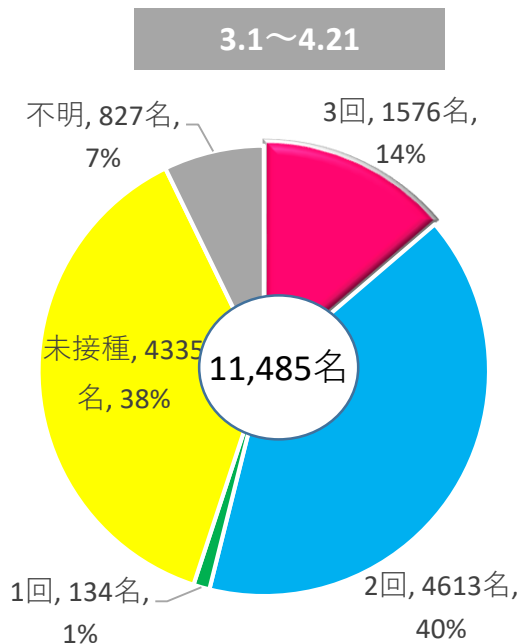
重症度



うち人工呼吸器：11名
高流量酸素：31名

第六波（3月以降）のワクチン接種回数別感染者の状況

- 第六波の3月以降の感染者11,485名のうちワクチン3回接種済者は1,576名で全体の14%であった。また、2回接種済者は4,613名（40%）で未接種者4,335名（38%）とほぼ同数であった。
- これを、3月と4月に分けてみると、4月の方が、3回接種済陽性者の割合が高くなっている。
- この理由として、①オミクロン株BA2の流行によるワクチン効果の減弱、②高齢者のワクチンの発症予防効果の減弱が考えられる。

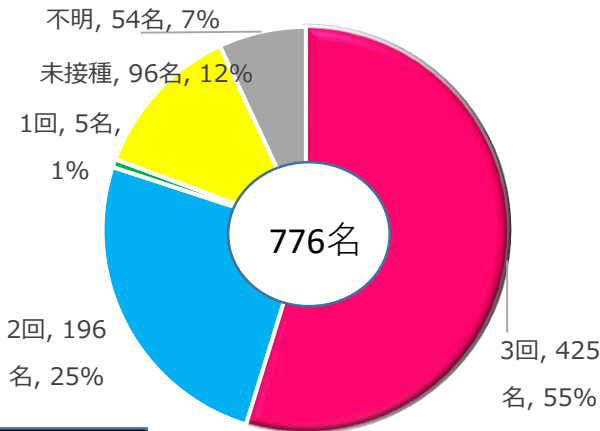


第六波（3月以降）のワクチン接種回数別・年代別感染者の状況

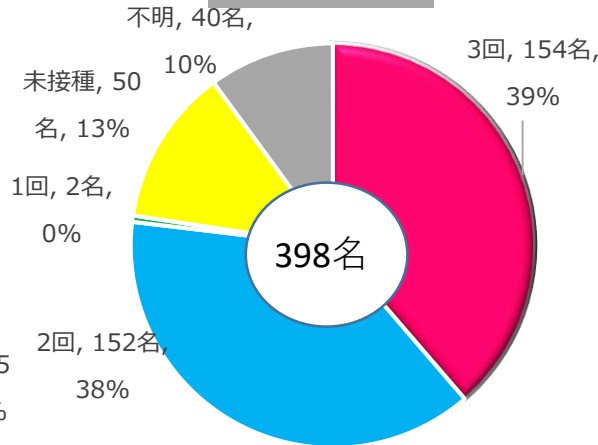
- 第六波の3月以降の感染者11,485名を65歳以上の高齢者とそれ以下の64歳以下の者に分けて、ワクチン接種回数別に見た。
- 3回ワクチン接種を早期に受けた高齢者では、それ以下の年代と比較して3回接種者の感染割合が高かった。オミクロン株 B A 2 の流行や接種後の時間の経過によるワクチン効果の減弱が考えられる。

65歳以上

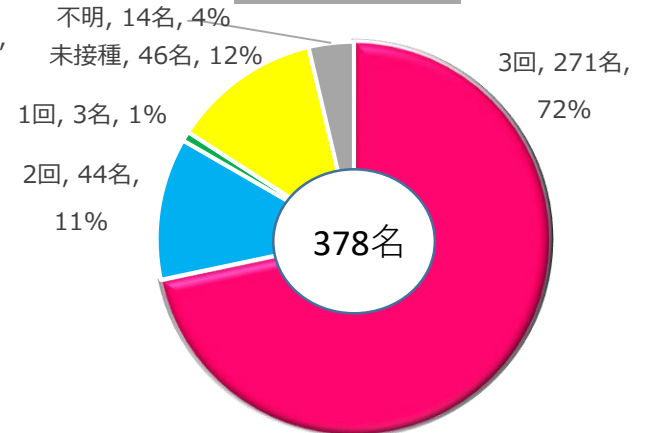
3.1～4.21



3.1～3.31

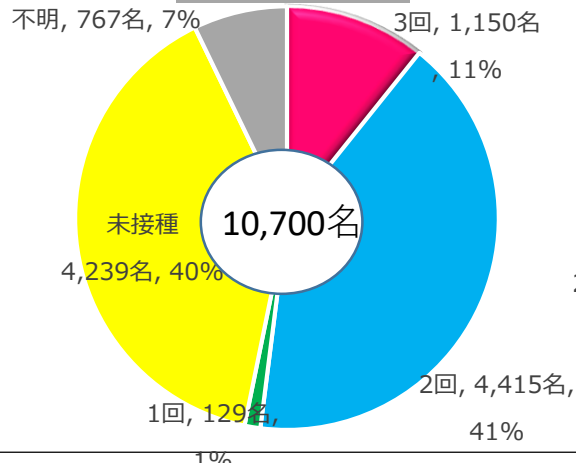


4.1～4.21

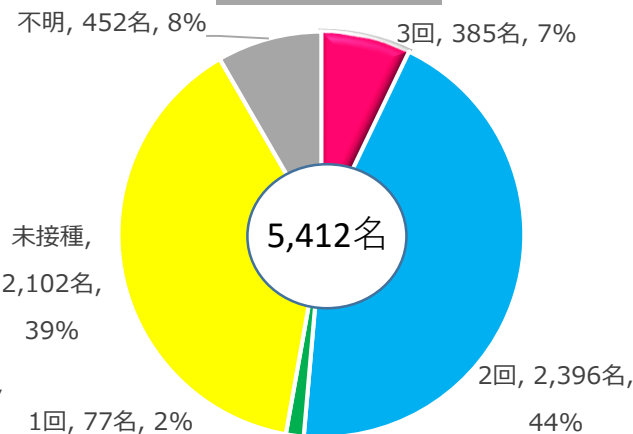


64歳以下

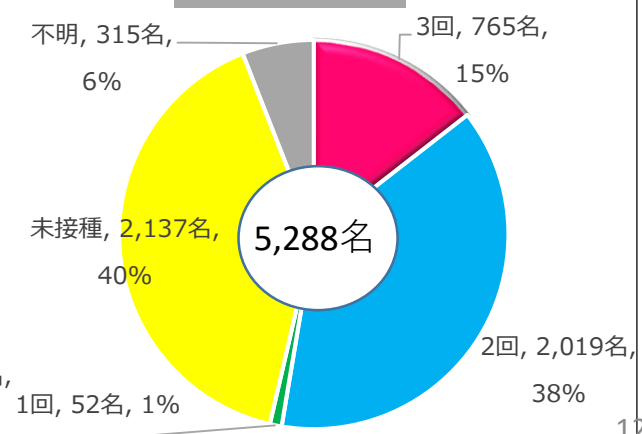
3.1～4.21



3.1～3.31



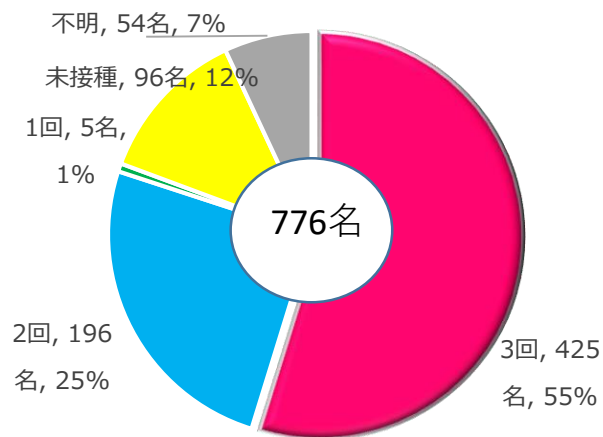
4.1～4.21



65歳以上・ワクチン3回接種済陽性者の重症度

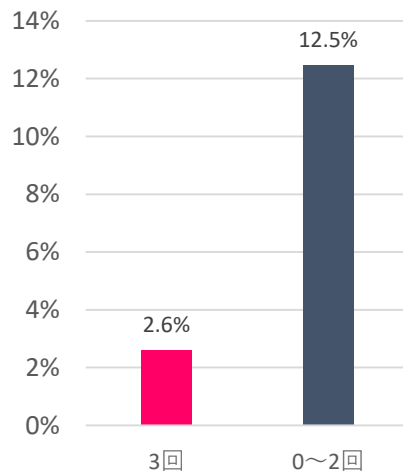
- 第六波の3月以降の感染者で感染した65歳以上の高齢者776名について、ワクチン接種回数と重症度を比較した。
- 酸素投与が必要になった重症者は、ワクチン3回接種者では、ワクチン2回以下接種者に比較して少なかった。
- 死亡者については、数が少ないため、解釈に注意が必要であるが、ワクチン3回接種者は、ワクチン2回以下接種者に比較して少ない傾向にあった。

65歳以上



【令和3.1～4.21】

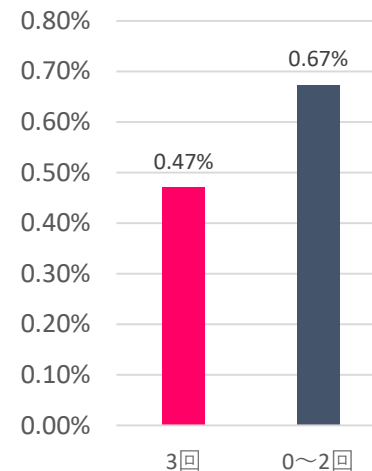
【酸素投与以上】



※有意差あり (P<0.01)

3回	11名
0～2回	37名

【死亡】



3回	2名
0～2回	2名

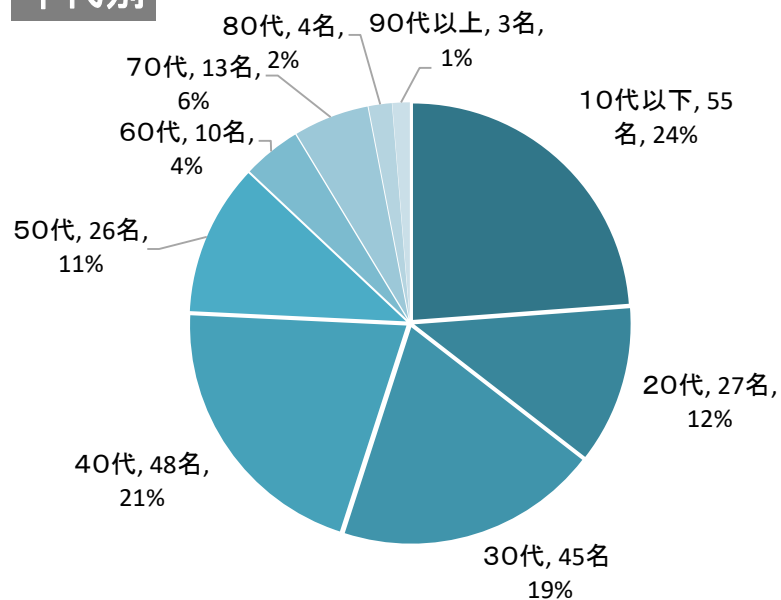
B A 2 の状況

オミクロンBA.2感染者（疑い含む）の状況

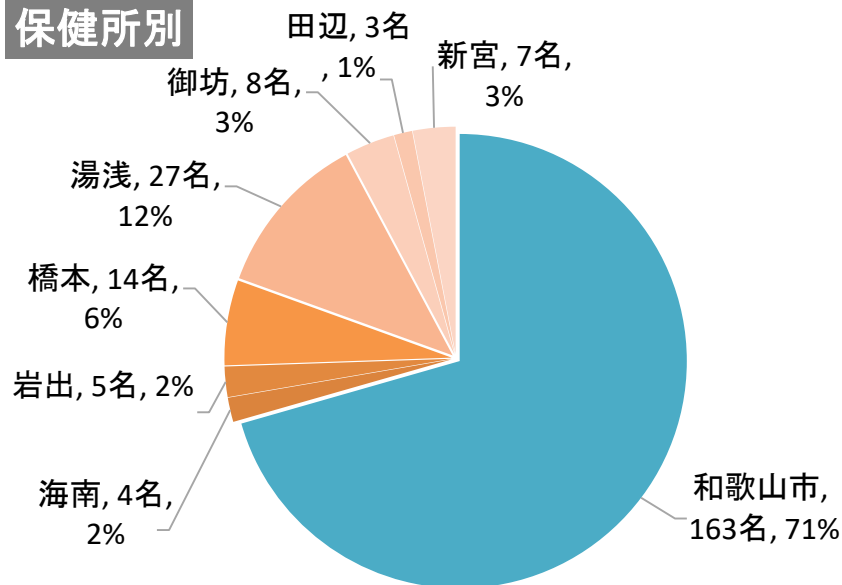
令和4年4月25日現在

- 第六波で陽性になった検体を適宜、県、和歌山市の地方衛生研究所において変異株スクリーニング検査を実施した。なお、ゲノムの確定は、県の環境衛生研究センターで行っている。
 - 令和4年4月25日時点で確認されたBA.2の感染者は、疑い例も含めて231名で、うち確定例は、29名であった。
 - 年代は、50代以下が80%以上を占めている。
 - 保健所別では、和歌山市が70%以上を占めているが、県内全保健所で確認されている。
- ※変異株スクリーニング検査は全ての感染者に行っているわけではない。

年代別



保健所別

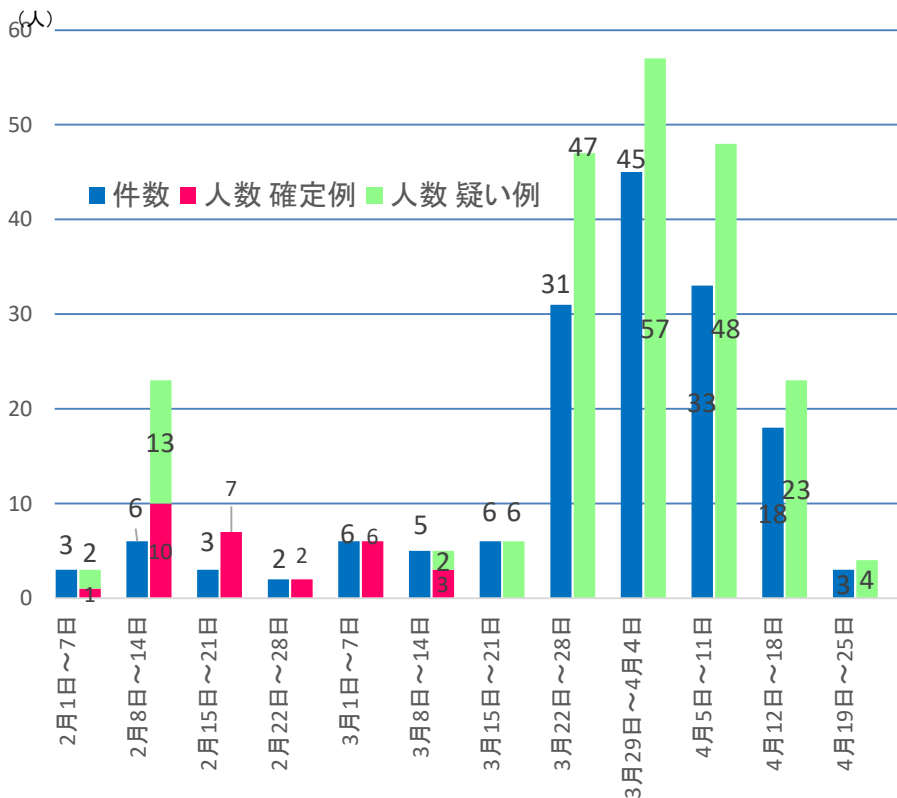


オミクロンBA.2感染者（疑い含む）の状況

令和4年4月25日現在

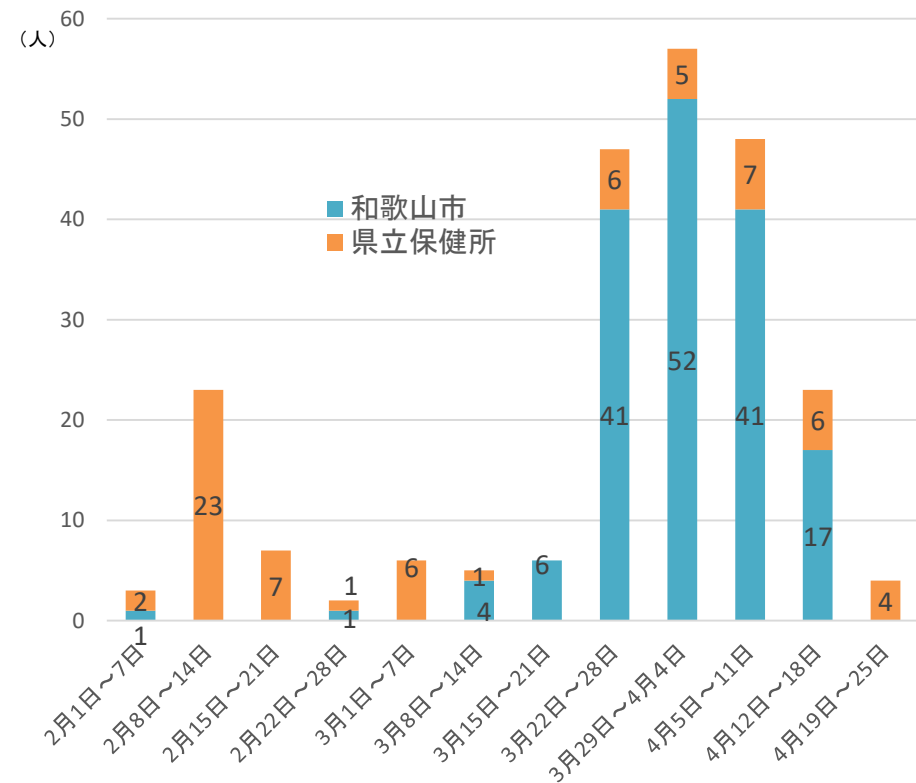
- オミクロン株のBA.2（疑い含む）感染者は、令和4年2月から確認された。3月下旬から確認数は増加している。また、確認された者間の関連性が不明の事例が増えている。
- 2月では、県立保健所でクラスター事例での検出が多かったが、3月に入ってから和歌山市が多くなっている。和歌山市地方衛生研究所の検査でのBA.2疑い例の検出率は直近では約70%となっている。なお、スクリーニング検査は全ての感染者に行っているわけではない。
- 4月下旬から、県の検査でもスクリーニング検査実施例はBA.2疑いとなっている。

発症日別 件数・人数



※件数は、関連性が明らかな事例数を除いた人数

発症日別・保健所別人数



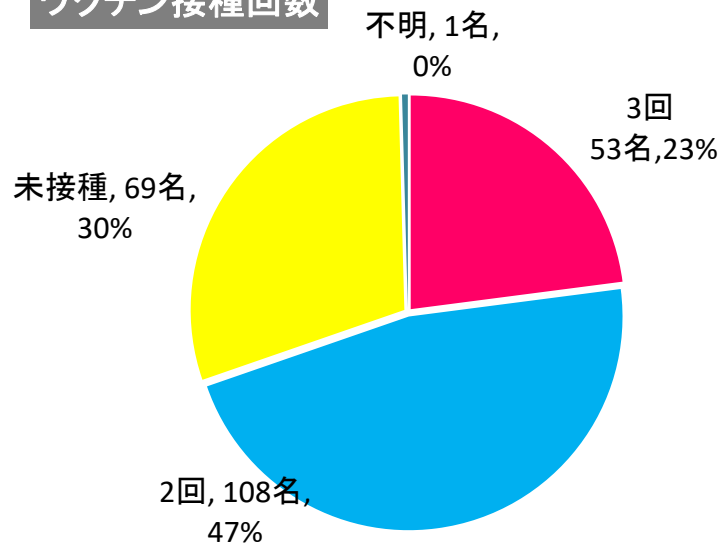
※2月初旬の事例はクラスターとその関係者

オミクロンBA.2感染者（疑い含む）の状況

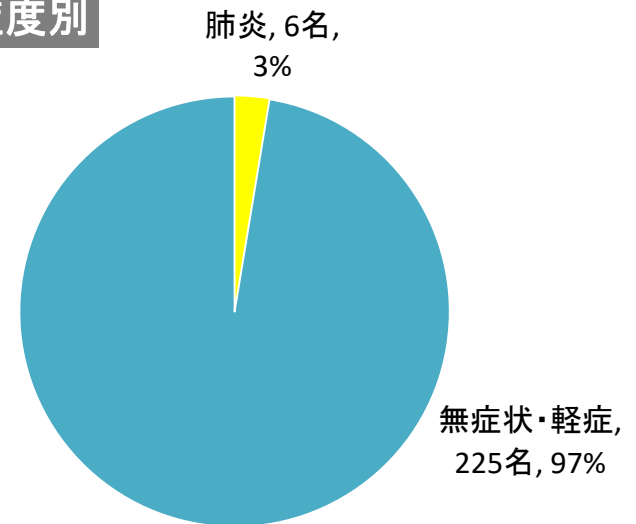
令和4年4月25日現在

- BA.2（疑い含む）感染者のワクチン接種回数は3回接種者が、約2割であった。
- BA.2（疑い含む）感染者の症状の経過では、**肺炎の併発**を確認した者は6名で、**全体の3%**であった。まだ、感染確認数が少ないこともあってか、酸素投与が必要な重症者はいなかった。なお、オミクロンBA.2疑い例で、**第六波の再感染例は、4名**あった。

ワクチン接種回数

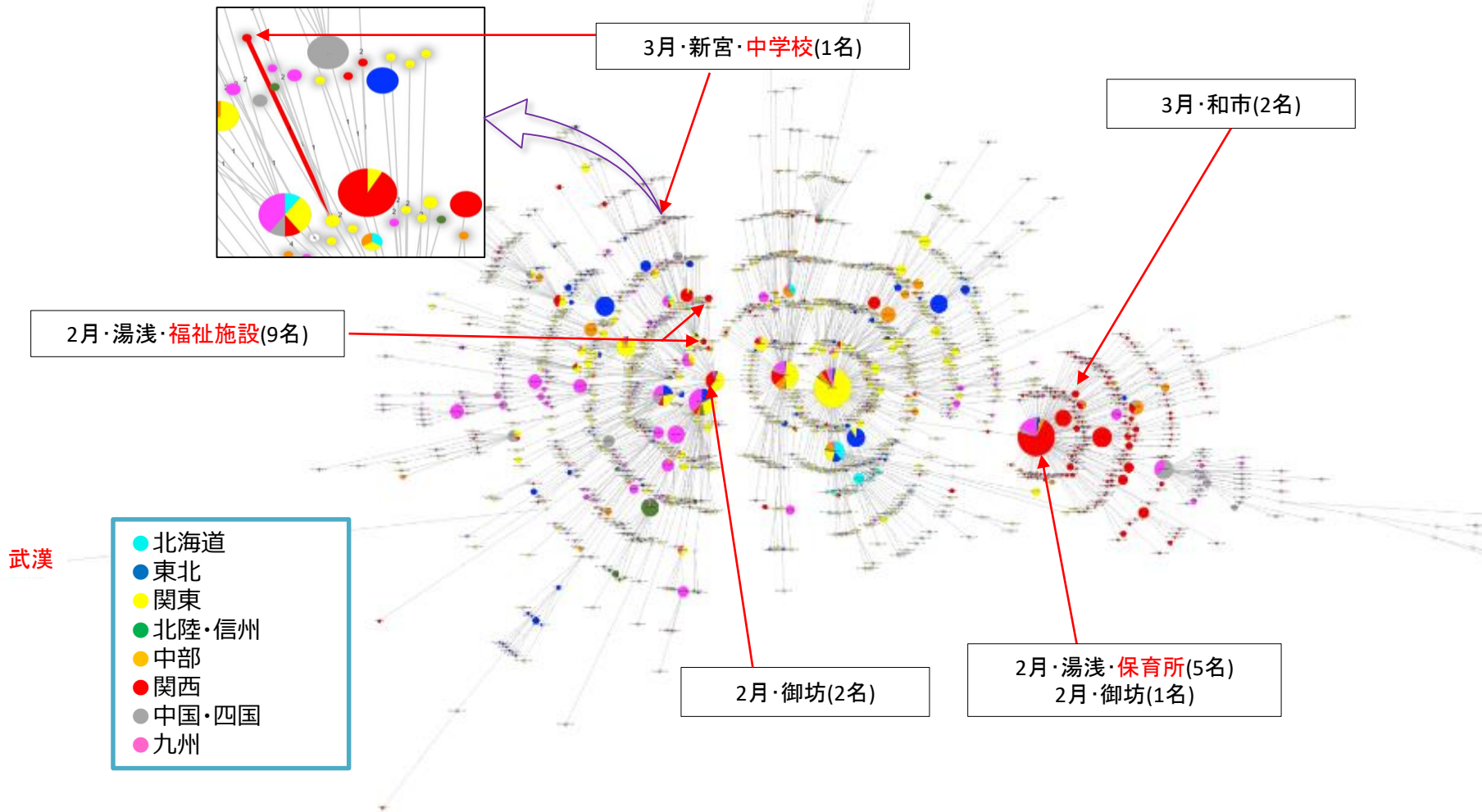


重症度別



オミクロンBA.2確定感染者のゲノム解析

- 本県のオミクロン株BA.2確定例のゲノム解析の結果を下図に示した。円の大きさはクラスターの規模を表している。
- 関東を中心として全国に伝播し、その後、関西を中心としたクラスターに分かれているが、本県の感染者は両方に存在した。
- 県内では、クラスターとなったところは、ゲノム解析上も同一またはつながりが見られたが、疫学上関連性がわからなかった人同士もつながりが見られた。
- 新宮の事例では、関東の人とつながっており、この圏域では、関東から持ち込まれ、感染拡大した可能性がある。



1. オミクロン株の再感染例！（3回感染例）

第六波

【事例】 年代： 60歳代・男性

同居家族： あり

基礎疾患等	心不全、喘息、潰瘍性大腸炎等	ワクチン 2回接種
診断までの経過	①令和3年4月、第1回目の感染。重症でICUにて治療 ②令和4年2月、他府県に入院中に感染。この病院はクラスターとなった。 (クラスターの変異株スクリーニングはされていない) ③令和4年4月、発熱 37.2度、鼻汁が出現し、その後、立てない、歩けない状態となり、医療機関受診し陽性判明。 PCRのCt値=25 変異株検査でオミクロン株のBA.2 疑い	
診断までの受診回数	1回	
入院後の状況	発症後1日目に入院。全身倦怠感、食欲不振、下痢等出現。肺炎は確認されず。薬物治療（レムデシビル、デキサメタゾン）、心不全に対する薬物療法。酸素投与。発熱は10日間持続。 血液培養でグラム陰性桿菌検出し、敗血症の診断。	
転帰	3回目感染時：発症後9日目のN抗体 3.39 COI 陽性 S抗体 897.2 U/ml 陽性 治療継続中	

2. オミクロン株の再感染例！

第六波

【事例】 年代： 40歳代・男性

同居家族： なし

基礎疾患等	肥満 BMI 33、 睡眠時無呼吸症候群	ワクチン 3回接種
診断までの経過	<p>①令和4年<u>2月初旬</u>、第1回目の感染。 発症3日前に同僚と飲食して同僚2名も感染。 変異株スクリーニングは実施していない。</p> <p>②令和4年<u>4月初旬</u>、発症3日前に同僚（当日は有症状で後に、陽性と判明）と飲食。発症時は咳のみ、次第に咳が強くなったため検査し、陽性判明。PCRのCt値=17 変異株検査で<u>オミクロン株のBA.2疑い</u></p>	
診断までの受診回数	1回	
転帰	軽快	

3. オミクロン株の再感染例！（3回感染例）

第六波

【事例】 年代： 20歳代・女性

同居家族： あり

基礎疾患等	妊娠	ワクチン 未接種
診断までの経過	<p>①令和3年7月下旬、第1回目の感染。 家族内感染。</p> <p>②令和4年<u>1月中旬</u>、第2回目の感染。 妊娠判明後の検査で陽性。37度台発熱、全身倦怠感</p> <p>③令和4年<u>4月中旬</u>、第3回目の感染。妊娠中。 咽頭痛、38度発熱あり、医療機関受診で陽性判明。 PCRのCt値=19 変異株検査で<u>オミクロン株のBA.2疑い</u></p>	
診断までの受診回数	1回	
転帰	経過観察中	

4. オミクロン株の再感染例！（3回感染例）

第六波

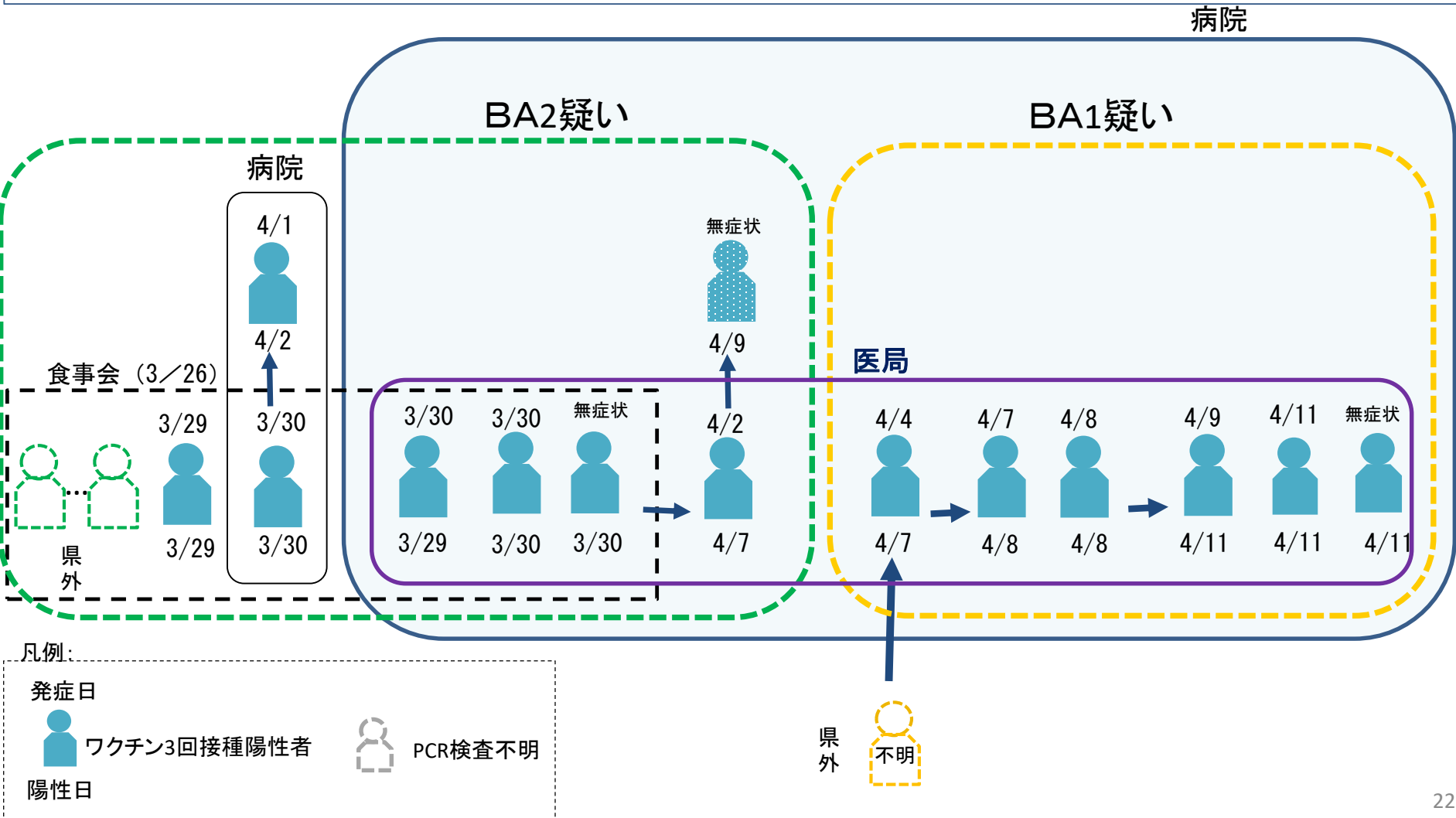
【事例】 年代： 40歳代・男性

同居家族： なし

基礎疾患等	脂質異常症	ワクチン 未接種
診断までの経過	<p>①令和3年11月中旬、第1回目の感染。 関東に出張あり。肺炎併発し酸素投与を受ける。</p> <p>②令和4年2月中旬、第2回目の感染。 発熱無し、咳、全身倦怠感。</p> <p>③令和4年4月中旬、第3回目の感染。 関東に出張あり。 37度台発熱、咳、息苦しさ、咽頭痛、頭痛、 全身倦怠感あり、医療機関受診して陽性判明。 PCRのCt値=20 変異株検査でオミクロン株のBA.2疑い</p>	
診断までの受診回数	1回	
転帰	治療継続中	

BA1とBA2が混在したクラスター

- 課題
- ① 医師が多数集まって食事会をしたことで感染し、**発症後も勤務した**ため同僚とスタッフに感染させたと推定される。
 - ② 発症後も勤務したため、**医局内**でコーヒー等を喫茶したり、共有の物品、スペースがあり、咳をしていたことで感染が拡大したと思われる。
 - ③ ワクチン**3回接種者も感染し、他者に感染させうる**ことを十分理解する必要がある。
 - ④ 医師は、マスクにさらにフェイスシールドやゴーグルをしていて診療にあたっていたことから、患者さんには感染が拡大しなかった。**個人防御の重要性**を再認識した。



その他注意すべき事例

【事例】 年代： 20歳代・男性

同居家族： あり

基礎疾患等	肥満 BMI 31	ワクチン 2回接種
診断までの経過	令和4年3月、発熱 39.8度、咽頭痛、頭痛が出現し、翌日38度に下がるが、他の症状続くため、医療機関受診し、陽性判明。	
診断までの受診回数	1回	
診断時の状況	発熱、咽頭痛、頭痛	
入院時の状況	発症後2日目に入院。	
入院後の状況	発症後3日目に37度台に低下するも肺炎を認め、薬物治療（レムデシビル、デキサメタゾン）。発熱は6日間持続。	
他者への感染	家族	
転帰	軽快退院	

【事例】 年代： 10歳未満（幼児） ・ 男性

同居家族： あり

基礎疾患等	特になし	ワクチン未接種
診断までの経過	令和4年4月、家族が発症し、当該小児も発症したため、近医を受診し陽性が判明。	
診断までの受診回数	1回	
診断時の状況	40度の発熱、嘔吐あり	
入院後の状況	入院後も7日間、40度～41度台の高熱持続。8日目にようやく39度台となる。食欲不振。眼球充血、四肢の硬性浮腫・紅斑、発疹、口唇亀裂、頸部リンパ節腫脹等を認め、 <u>川崎病を疑い</u> 、発症後、8日目（ 高熱9日間 ）に <u>γグロブリン投与</u> 。投与翌日には解熱。ところが、発症後、11日目に再度、40度発熱し、高次医療機関に転院。	
転帰	転院後、全身状態は安定したが、夜になると40度の高熱になる状態が持続。心疾患の合併は認めず（発症後16日後の状態）。治療継続中 なお、 <u>発症後9日目</u> N抗体 陰性 、 S抗体 3.07 U/ml 陽性であり、コロナウイルス感染が引き金となって川崎病を発症したのか、川崎病にコロナウイルス感染症を併発したのかはわからない。	

重症化リスクのある人は早期受診と ワクチン接種を！

第六波

【事例】 年代： 60歳代・男性

同居家族： なし

基礎疾患等	糖尿病、高血圧、肥満 BMI 31	ワクチン 未接種
診断までの経過	令和4年4月、食欲低下があり体調不良。その後、発熱 38度台あるも受診せず。 発症後5日後に熱が上がり、咽頭痛もあり、 息苦しさが出現し、動けなくなった ため、救急要請を行い、医療機関受診し、陽性判明。	
診断までの受診回数	1回	
診断時の状況	低酸素血症を認め、緊急入院	
入院後の状況	重症の肺炎 を認め、 ICU に入室し、高流量酸素投与、薬物治療（デキサメタゾン、バリシチニブ）。	
転帰	治療継続中 変異株検査で オミクロン B A 1 疑い	

まとめ

- 令和4年1月から始まった第六波は、2月初旬にピークに達した後、減少したが、3月下旬には、再び上昇に転じ、4月中旬に第二のピークに達した後、減少傾向となっている。
- 減少の要因として、ワクチンの3回接種による発症予防効果と年度の変わり目による人流の変化の影響が考えられる。
- 一方、本県においても2月からオミクロン株のBA2の感染者が見られ始め、3月下旬から増加していると考えられる。
- オミクロン株のBA2への置き換わりと3回接種を早くに実施した高齢者で、ワクチンを3回接種した者の感染者が増加している。
- 現行のワクチンの発症予防効果が、オミクロン株のBA2と接種後の時間経過により、減弱化していることが考えられる。
- ただし、65歳以上の高齢者においても、ワクチン接種を3回接種した者は、酸素投与に至る割合が低く、死亡する割合も減少しており、重症化予防の効果があると考えられる。
- オミクロン株のBA2（疑い）が確認された事例はまだ少ないが、肺炎の併発は3%であり、重症化する割合はBA1と比較しても高くない可能性がある。
- ただし、オミクロンBA1に感染しててもBA2の感染は起こりうることに留意する。
- ワクチン3回接種は、地域全体の感染を予防する効果や個人の重症化を予防する効果はあるが、発症を完全に予防する効果はなく、ワクチン接種をしていても感染することまた、他者へも感染させうることを十分認識することが重要である。
- したがって、個々人が感染予防策を継続して実施すること、リスクの高い行動は控えること及び早期受診・検査を行い、集団に感染を持ち込まないことが重要である。